

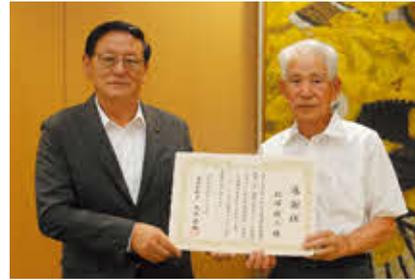


市長日記

## 中海護岸清掃12年

長年にわたり清掃活動に取り組んできた松浦雄二さん(汐手が丘在住)へ県知事から感謝状が贈られ、知事に代わり贈呈しました。

松浦さんは自宅近くの中海護岸沿いを1日2回(午前と午後)、散歩しながらごみ拾いを実施、地元のケーブルテレビで紹介されました。市民全体の環境保全の啓発に貢献したことなどが評価されました。



▲田中市長(左)から感謝状を受け取る松浦さん(右)(7月4日)。



紹介します  
出来事を  
まちな話  
の話題や

# たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

今月の1枚



嫁来い観音・婿来い地蔵前の山佐川での川遊び。広瀬駐在所の署員や、山佐っこを育てる会など地域の人々の見守りの中で、山佐小学校の児童たちは、水生生物の観察や水泳など、のびのびと澄んだ川を楽しみました。  
7月5日：広瀬町奥田原



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



## 新メニューに向けて

▲初顔合わせとなった参加者。各団体の強みを生かして、プロジェクトを進めていきます。

産学金官連携による「えーひだプロジェクト キックオフミーティング」が7月4日、安来中央交流センターで開催されました。参加したのは、えーひだカンパニー株式会社、情報科学高校、島根銀行安来支店と安来市。来年3月に比田いきいき交流館がリニューアルオープンするのに併せ、提供するカフェメニューの開発に向けた意見交換を行いました。

同カンパニーの田邊裕子さんは「『健康』と『交流』をテーマに、同交流館で楽しいひと時を過ごせるメニューを考えていきたい」と話していました。

絵本作家の浜田佳子さんによる絵本原画展「へいわって どんなこと？」のギャラリートークが7月17日、安来市加納美術館で行われました。

浜田さんは中国、韓国の絵本作家に呼びかけ、日・中・韓の3カ国12人の作家と平和絵本シリーズを企画。その第1作として「へいわって どんなこと？」の絵本を出版しました。

浜田さんは「この絵本の根底には、命の大切さ、うまれてきてよかったというメッセージを込めています」と平和への思いを語っていました。



## 絵本で語る平和

▲原画を見ながら解説する浜田さん(右)。原画展「へいわって どんなこと？」は9月4日まで。





## 自慢の牛で競い合う

▲市内の畜産農家が一堂に集う同共進会。農家相互の情報交換や親睦を深めていました。

畜産農家の生産技術の向上と農家同士の交流を深めることを目的に、利弘集畜場で安来市種畜共進会が7月6日、3年ぶりに開催されました。

この共進会は、市内15の畜産農家が丹精込めて育てた肉用種牛11頭、乳用種牛5頭の計16頭を肉・乳用別に審査。体の張りや背の高さなどの発育状況、皮膚の質、全体の体形などが競われました。

審査総評を行った県東部農林水産振興センターの福田智大課長は「この大会を通じて、安来地域の畜産業界の飛躍を期待しています」と話していました。

安来市と第一生命保険株式会社で協働作成した絆ノートの更なる普及と活用を促すため、7月4日に絆ノート書き方セミナーを開催しました。第一生命保険株式会社の藤井博司講師は「書いて終わりではなく、家族との会話に用いて絆を深めるなど、自分らしく暮らすために使ってほしい」と語りました。

絆ノートは、安来市版エンディングノート（終末期や死後のことを記すノート）です。市役所の各庁舎と健康福祉センターに置かれ、300部以上のノートが手に取られるなど大きな反響を得ています。



## 思い伝える絆ノート

▲ノートの活用方法を学ぶ参加者。自分史など数ページほどその場で書く時間もありました。

情報科学高校の生徒が7月12日、同高校の近隣に通う小学校3校の児童を招待して「ウェルカム講座」を開催しました。

同高校の体育館で行われた講座に宇賀荘小、能義小、南小の6年生26人が参加。ドローン（無人航空機）を使ったプログラミングを体験しました。高さや距離を調整しながら、目標物として用意した得点板をくぐらせるミッションに挑戦しました。

来年度同じ中学校に通う児童たちは、この講座を通じて親睦を深めていました。



## ドローンで交流図る

▲タブレット端末に高校生から教えてもらったプログラムを入力し、ドローンを飛ばす児童。



## 花火と笑顔を満開に

▲南小学校、認定こども園大塚、自治会の作品展。大塚交流センターで展示されました。

大塚町で7月23～24日の2日間、秋葉さんと大塚文化祭が開催されました。新型コロナウイルスの影響で開催は3年ぶり。実行委員会の細田正陽委員長は「実行委員会でギリギリまで話し合い、最終的には地域の活性化、何より子どもたちに楽しめるイベントを、という思いで感染症対策が徹底できるもののみを開催することにしました」と話しました。

祭りでは約1500発もの花火の打ち上げ、交流センターの教室生発表、地元住民の作品展などが行われ、地域が一体となり盛り上がっていました。